

第2回全国未成線サミットに参加して

嘉藤 太史

1. はじめに

平成30年10月27日（土）及び28日（日）に福岡県田川郡赤村で「第2回全国未成線サミット in 赤村」が開催された。さて、未成線とは開業を期待されていたものの時代の波に飲み込まれ列車を走らせることも叶わず、工事中途で放棄された路線のことである。放棄された路線は撤去されたり、或いは道路敷地になったりと悲しい歴史を持つ。

しかし、鉄道マニアにとって、廃線と並んで関心の高い路線であるようだ。また、未成線を抱える自治体にとっても今までは邪魔者扱いにされてきたようであるが、近年、これを逆手に取って地域活性化の起爆剤として成功しているところもある。

成功裏に終わった今回の未成線サミットについてまとめてみた。

2. 開催概要

(1) 開催日

平成30年10月27日（土）～10月28日（日）

「第2回全国未成線サミット」10月27日 13:00～

「トロッコイベント」10月28日 10:00～

(2) 場所

- ・第2回全国未成線サミット

住所：〒824-0432 福岡県赤村大字内田 1188 番地「赤村住民センター」（赤村町役場） ☎0947-62-3000

- ・トロッコイベント「赤村役場周辺」平成筑豊鉄道赤駅前 他

(3) 参加団体

- ・「今福線」（島根県浜田市）
- ・「佐久間線」（静岡県浜松市）
- ・「岩日北線」（山口県岩国市）
- ・「五新線」（奈良県五條市）
- ・「高千穂線」（宮崎県臼杵郡高千穂町）
- ・「油須原線」（福岡県赤村）

3. 基調講演

鉄旅タレント 木村裕子氏による「未成線を活用した情報発信」の演題であった。木村氏は鉄道マニアの中ではよく知られている方であるが、私は初めてお目にかかった。若く、声も良く通り聞く人を飽きさせない人柄である。

また、女性という事も無きにしもあらずだが取り巻きが凄かった。男女それほど若くない人達数十人が木村氏の行くところ、常に姿がある。また木村氏もこれらの方達の面倒をよくみていらっしゃる。お姉さんのようである。全国の鉄道を全て踏破した実力と面倒見の良さが木村氏の人気の秘密である。

さて、木村氏の講演で注目すべき言葉があった。それは「今ある物+へんなもの=注目される」である。今ある物とは未成線である。へんなものとは例えば、駅のホームにバスケットボールの的を設置する、まずいお土産(本当は普通のお菓子)という振りで売る、渡り廊下で食堂を設置する、鳥を飼う、たぬきを飼う、通常想像しない食材で料理をつくる、暗いトンネルの中でフィットネス、アスパラガス作り、暗闇合コン、シークレットロッカー等々。



要は付加価値を付ける、という事である。一発芸というリスクもあるが、「あの未成線に行けば何だか面白いものがあるそうだ。」という情報が伝搬すればしめたものである。

4. パネルディスカッション

- ・「今福線」(島根県浜田市)
- ・「佐久間線」(静岡県浜松市)
- ・「岩日北線」(山口県岩国市)
- ・「五新線」(奈良県五條市)
- ・「高千穂線」(宮崎県臼杵郡高千穂町)
- ・「油須原線」(福岡県赤村)

上記各団体でのディスカッションであり、それぞれに趣のある話を聞くことができた。その中で、何れの団体からも「客の興味を引く発想と、維持をどうして継続出来るか。」が懸念の中心であった。

また、主催者側からのスピーチでは「このような大きな会を催すにはこの町だけの力では限界があります。皆さんのお力が必要です。」と。時間が経ち記憶が曖昧ではあるが、切羽詰まった感であった。



例えば、この地赤村では「トロッコ」を運営している。どうやってトロッコ列車を走らせることが出来たのか。それは戦後間もない日本の急速な発展を支えた筑豊の炭田が始まりである。

大量の石炭をどのように消費地に運ぶか。筑豊本線だけでは不足したため裏側である山田・油須原地区を通って行橋側に抜け苅田港から石炭を運び出す新ルート建設であった。

しかし、建設途中で石炭産出量の減少により苅田港側からの輸送の需要はなくなってしまった。加えて貨物輸送だけのために造った油須原線は旅客輸送には不向きであった。その結果、油須原線は開業することもなく未成線となってしまったのである。

その後、油須原線を使つての軌道自転車トロッコイベントの開催(1995 年)。さらにかつての九州の玄関口・門司機関区に埋もれていた、青色の車掌車ヨ 9001 を使った湯須原線の保存活動案の立案。しかし、油須原線のトンネルを使つての上水道工事により頓挫。

それでも鉄道保存案を惜しむ村では水道工事後のトンネルに新たな線路を引くことを提案。水道工事で 1.2m 嵩上げされた線路には普通サイズの鉄道車両は入らず、かつて筑豊炭田で使われていた 610mm 軌道で整備、岐阜県神岡鉱山から運んだトロッコにより復活することになった。平成 15 年 10 月 5 日観光鉄道として開通（以上、赤村 HP より）。

以上のとおり、今のトロッコ列車が走るまでの苦労は相当なものであったと思われる。他の未成線を抱える団体も同様に苦しかった過去を持ち、それでも途中の苦難を乗り越えて現在に至っている。

翻って、当地今福線を見るとまだまだこれからである。将来の展望を真剣に考えていく時期に来ている。市、地元、その他の諸団体との連携や活動も拡がりを見せている。

幸いにも次回 2 年後は当地今福線が開催会場である。この 2 年の間に将来展望を十分に煮詰めておく必要がある。

5. トロッコイベント

トロッコイベントでは注目のトロッコに乗ることが出来た。乗り心地は満点とは言えないがトロッコ、線路とも整備が行き届いており、また案内のスピーチも楽しく機会があれば是非もう一度、乗車したいものである。



トロッコ運転手はほとんどの方がシニア(赤ジャンパーの方)であり、また手弁当のボランティアでやっている、とのことであった。未成線を観光資源として運営していく場合、人件費等の維持管理費用を如何に抑えていくか苦労が滲みでている。

下の右の写真は隣村との遮蔽壁である。線路は繋がっているが、なにやら安全上のためにやむなくこのようにしてある、とのことであった。折角の観光資源の魅力が半減しているようで残念である。是非ともこの遮蔽壁を撤去するよう努力して頂きたい。



最後にイベント会場の賑わいをお伝えする。太鼓、踊り、出店等々賑わっていた。2年後もこのような盛会でありたい。

